

## 盆栽展示室（座敷飾り）

大宮盆栽美術館は、日本で来客を楽しませるのに伝統的に使用されてきた 3 種類の畳の間にかに盆栽が飾られるのかを示す、世界唯一の専門展示が行われている場所です。これらのインテリアのスタイルやこれに関連する装飾様式は、共に座敷飾りとして知られているものですが、中国の書道の巻物に着想を得て、社会的役割に従い、室町時代（1336 年-1573 年）に形式化されました。中国流の茶の文化が人気となった江戸時代（1603 年-1868 年）末期までには、盆栽がそれぞれの部屋のスタイルに取り入れられました。それぞれの種類が本来の姿で美術館に再現されており、来館者自身は敷居を跨いで部屋に入ることは許されていないものの、内部の畳の上に座るのをイメージすることが簡単にできます。

盆栽は、それまでの室内装飾の様式に後から加えられたものですが、その中心点、または美的な重しのようなものとなり、その周りで、掛け軸や山のような形をした水石など、床の間に配置されるその他の物の調和が取られます。3 つの座敷飾りの部屋は、左から右へと順番に、今日の日本の部屋に見られる最も一般的な種類である、中ランクの行というスタイル、主に堅苦しくない、茶を出すためにデザインされた草というスタイル、そして最も格式があり、社会的地位の高い来客を想定した真というスタイルになっています。コレクション・ギャラリーと同様に、ここで展示される盆栽も週替わりです。